

# 反革命木元グループの刺殺テロと一体の 神奈川県警・小田原署の 殺人的取調べ徹底弾劾

全国反戦青年委員会・全日本学生自治会総連合(伍代委員長)

東京都杉並区下高井戸1-34-9 03-3329-0165・0168 <http://zengakuren.info>

2000年2月9日、反革命木元グループは真鶴駅ホームで、同志2人に刺殺テロを加え、B同志を虐殺し、A同志に瀕死の重傷を与えた。神奈川県警公安3課と小田原署は、A同志が2カ月余りの入院ののち、4月21日に転院するために退院したところ、「凶器準備集合」をでっち上げ不当逮捕した。それ以降、傷も癒えていないA同志を劣悪な小田原署の留置場に放り込み、連日の長時間・夜間「取調べ」を強行し、同志に腸閉塞を発症させた。のたうち回る同志を1時間にわたり放置し、ようやく運び込んだ病院では手錠をかけた。同志を刺殺できなかった木元グループに代わり、警察が獄殺を企てたのだ。A同志は決死の闘いで、その後生還した。権力による虐殺策動から本年をもって18年、われわれは何年たとうと、A同志を獄殺するために国家権力が凶行した一つひとつを絶対に許さない。獄殺行為の下手人、それを命じた当時の神奈川県警本部長・現本部長、当時の小田原署長と現小田原署長に報復する。

## ◆神奈川県警・小田原署の拷問「取調べ」を許すな

A同志は、木元グループに虐殺されたB同志が「四徳ナイフ」(スプーンなどがついている物)を持っていましたとし、それを「共同所持していた」と「凶器準備集合」をでっち上げられ不当逮捕されました。

4月21日、神奈川県警・小田原署はA同志を転院のため迎えに来た獄外の同志や弁護士から力づくで引きはがした。そして、刺殺テロで体力が極端に落ち、療養が必要なA同志をでっち上げ逮捕し留置場に叩き込んだ。入院していた病院の主治医が「取調べは1時間が限度」と言っているのを承知で、連日午前・午後・夜間の長時間「取調べ」を強行した。拷問そのものだ。後の国賠訴訟でこの医師は、「主治医の言ったことを無視した長時間の取り調べ」と怒りをもって証言し、A同志は勝利した。4月23日には、勾留延長のために、すぐ近

くにある横浜地裁小田原支部ではなく、遠くにある横浜地裁に連れて行った。A同志は両脇を警官にはさまれ、横になることもできず、呼吸困難に陥った。それにとどまらず、疲労困憊で小田原署に戻ってきたA同志を、19:00過ぎから「取調べ」をしようとした。A同志は「殺されてたまるか」と「取調べ」を拒否し闘った。

小田原署留置場の「食事」は、全般に揚げ物が多い。日曜の朝にはカップラーメンを出してくる。病人でなくとも体力を低下させるものだ。ましてや栄養が必要な病人は確実に症状を悪化させる。

さらに小田原署は悪質な医療妨害を繰り返した。A同志は刺された傷を消毒する必要から、毎日の通院を要求したが、小田原署はこれを無視し、毎日の治療を妨害した。

## ◆同志を放置し殺そうとした小田原署に報復する

このような「取調べ」、「食事」、医療妨害が続く中で、同志は4月27日夕方、激しい痛みに襲われる。脂汗をながしのたうち回る。同房の女性が留置係に「すごく痛そうだ」と訴え、A同志も「お腹がはち切れそうに痛い！」「病院に連れていけ！」と何度も要求した。しかし、小田原署は病院につれていかない。そのうち苦しさが増し胃のなかのものを吐き出した。それを見た留置係は「父親が腸閉塞だったので同じではないか」と焦って連絡する。しかし、いくらたっても病院につれていこうとし

ない。救急車も呼ばない。連れて行ったのは1時間後だ。行く車中でA同志は何度も吐いた。腸閉塞は放置すれば敗血症などの致命的な合併症を起こす病気であり、救急処置が必要なことを警察が知らなかったとは言わせない。小田原署は意識的に放置し、病院に連れて行くのを遅らせ、A同志を殺そうとしたのだ。小田原署は、この日18:00に接見にきた弁護士に、A同志の状態を知らず、嘘をつき接見を妨害した。A同志を完全に孤立させ抹殺しようとしたのだ。

## ◆絶対安静の同志に手錠・捕縄をかけた小田原署に報復する

4月27日腸閉塞で緊急入院したA同志はその後も嘔吐を繰り返し、点滴をし、鼻から胃に管を入れられ絶対安静の症状でハイケア病棟に入院した。そのA同志の左手に神奈川県警・小田原署は手錠をかけベッドにつないだ。身体がまったく動かせない。A同志が必死で抗議をすると、女性警官

が手錠に捕縄をかけて見張るやり方に変えた。絶対安静のA同志に手錠をかけ、すぐそばで監視し、眠らせなくして強度のストレスを与え、謀殺しようとしたのだ。これを意識的に行った神奈川県警・小田原署に報復する。

## ◆刺殺テロで重傷を負ったA同志への虐殺攻撃に報復する

以上の事態に先立ち、2月9日、木元グループの刺殺テロによって瀕死の重傷を負い、病院の集中治療室で酸素吸入していたA同志に神奈川県警・小田原署の公安刑事3人が行ったことは虐殺行為そのものだ。「事情聴取をする」と数十分にわたり大声で頭の上でわめき散らした。神奈川県警・小田原署は、A同志の事態を知り駆け付けた仲間たちとの面会を、病院と結託し「病状」を理由に面会させなかった。徹底抗議し、翌10日には面会できだが、それ以降も病院内外に私服警官を徘徊させ、

執拗に面会妨害・監視を行った。

また、病院の総副婦長がA同志の酸素マスクをはずし、ポロライドカメラで撮影した。写真撮影は警察に頼まれていたことが後に判明している。これだけではなく、この婦長は警察に頼まれスパイ行為を行っていた。A同志と友人が面会で話していることに聞き耳を立て、A同志の書いたメモを警察に渡し、友人に書いた手紙を抜き取り盗み読みしていた。

## ◆同志の決死の闘いに続き、神奈川県警・小田原署に報復する

A同志の決死の完黙非転向一「取調べ」拒否の闘い、治療妨害粉碎の闘いが国家権力の獄殺攻撃を粉碎した。困難な状況下で、命を賭して闘う同志の闘いは、「何としても同志の命を守ろう」という決起を生み出した。組織壊滅型弾圧と、木元グループの白色テロとの闘いの渦中にあるすべての同志は、大きな感動をもってA同志とともに闘いぬき勝利した。

A同志の闘いを引きつぎ、同志とともにわれわれは闘っている。神奈川県警・小田原署に対して何

年かかるとも報復する。現下の司法取引・共謀罪弾圧と真っ向から闘い、権力打倒の闘いの飛躍を勝ちとる。森友学園問題、労働法制改悪をはじめとして、ファシスト安倍に対する労働者・人民の怒りは沸騰している。排外主義・差別主義をまき散らし戦争とファシズムに突撃し、改憲・天皇代替わり攻撃を全面化する安倍連合政府を打倒しよう。

2・9 刺殺テロを凶行した木元グループを一刻も早く解体・根絶する。柿沼同志一5同志虐殺に報復する。